

韓 国 民 主 化 闘 争 支 持 の 決 議 文

(前 文)

韓国の主にある兄弟姉妹、

あなたがたが72年10年の憲法改正以来、いわゆる維新体制のもとで直面している苦難を覚える時、私達の心も又痛むのです。そして、最近のインドシナ情勢の激変の中で、「総力安保」の名のもとに「国家冒とく罪」「緊急措置第九号」などによって一切の人間としての自由が奪われ、国民の基本的権利までも抑圧されている現実に対し、あなたがたがこの国民的苦難をキリスト者の苦難として負い、この国民的戦いを教会の戦いとして戦っていることに対し、私達は深い感銘を覚えるのです。

私達は、あなたがたが主張されているように、自由と正義、そして民主主義の回復こそ、権力者によって強制された一致ではなく、真実に韓国民の希望と喜びに満ちた一致をもたらすものであり、何よりも全世界のキリスト者および自由、正義、民主主義を愛する人々の力強い支持を受けるものであることを知っています。

私達は、歴史の主なる神が韓国を愛し、又あなたがたの直面している苦難を顧みられることを切に求めて祈ります。そしてこの日本社会にあって、真に日韓両国の和解の道を求め、そのために私達に課せられた課題を担い、戦いを遂行することを以下の声明によって明らかにしたいと思います。

(声 明)

- ① 神のみ前にあって人はみなひとしく罪人である。しかし、神はそのひとり子なるイエス・キリストをこの世につかわし、われわれの罪を御子のあがないを通して赦し、神との和解の道を備えて下さった。
- ② 罪赦され、神との和解にいれられたわれわれの使命は、主なるイエス・キリストの、この福音をすべての人に宣べ伝え、彼等を主告白へと導くことである。それはこの地上に、神の国を建設する働き人としての使命に他ならない。
- ③ この大いなるわざへの参与は、イエス・キリストの語られた御言葉

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。また自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」 によって導かれる。

- ④ われわれにとって神を愛するとは、歴史のただ中で、神の意志が支配することを心から祈り求めつつ、神の国建設のために闘い勞することである。隣人を愛するとは、主にある喜びと希望を分かちあいつつ隣人と共に生きるための実践を意味する。
- ⑤ われわれは、韓国のキリスト者が国家権力の暴虐な力によって、一切の人間の尊厳と基本的権利を圧殺されている状況に抗し、死を賭してまでも自由と正義、そして民主主義を守り抜く戦いを続けていることに深い感動を覚える。そして「人権は神から与えられた至上の価値であって、神以外のいかなる力も、これを侵すことは許されない」との73年11月に発表された韓国キリスト教教会協議会(KNCC)の人権宣言の中に、われわれは韓国キリスト者の戦いの根幹を支えている信仰告白を聞くのである。
- ⑥ このような韓国キリスト者の戦いは、省みればわれわれ日本のキリスト者に対する、厳しくも赦しにみちた戦いへの連帯の呼びかけにほかならない。われわれは、この呼びかけを受け、過去において不幸に分たれていた日韓両国のキリスト者達が、その不幸な関係を克服し、真に揺ぎない信頼と兄弟愛に支えられた新しい時代を迎えるために、神の国建設の共同の戦いを、戦う決意をあらたけしたい。
- ⑦ かって日本の36年にわたる朝鮮植民地支配の中で、われわれ日本人は韓国の人々に対して、常に抑圧者としてあり続けてきた。キリスト者も決して例外ではなかった。さらにわれわれは、そのことに対する深刻な反省のないうえ、敗戦後の30年あまりを歩んでしまったのである。われわれは今こそ過去の歩みを真剣に見つめなおすべき時であると考える。
- ⑧ 現在の韓国のキリスト者及び民主的な人々の受けている苦難を覚える時、その苦難が日本の政治、経済のあり方と無関係ではないことを思い知らされる。それ故、われわれは為政者たちの犯した過ち、そして今犯しつつある過ちを、われわれの過ちとして、神のみ前に懺悔し、その誤まりを正すための戦いに立ち上ることを決意する。このことは又、韓国のキリスト

者らによる民主化闘争への、真の意味での連帯となることを信ずる
ある。

日本バプテスト連盟第29回年次総会

牧師・信徒一同